

2025年2月19日

住友生命保険相互会社

スミセイ「わが家の防災アンケート」2025

～7割超が2024年の災害の影響で防災意識が向上、年間の防災対策費も大幅増加～

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳）は、家庭の防災対策の実態や意識に関するアンケートを行いました。東日本大震災から5年となる2016年に調査を始め、今回で10回目となります。

能登半島地震から1年経ちましたが、現地の生活再建は道半ばという状況です。2024年には他にも地震が多発し、台風・大雨による洪水等も、人々の命や暮らしを脅かしました。

被災された皆さまにはあらためまして謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興とご健康を、心からお祈り申し上げます。

◆調査結果の概要（詳細は別紙）

○2024年に発生した災害により、防災への意識・関心が“高まった”は7割超。将来、自身が被災する可能性について、約6割が“高い”と考えている（3～5ページ）

2024年の災害により、防災への意識・関心が“高まった”（「高まった」「やや高まった」）は7割超（71.9%）を占め、うち5割超（52.4%）は自身の防災対策の行動（備蓄やハザードマップ・避難場所の確認など）につなげている。

過去に被災・避難した経験は約3割（26.3%）が持っている。また、将来被災する可能性については、約6割（59.1%）が“高い”（「高い」「やや高い」）と回答した。

○最も備えが必要だと思う災害は「地震」。年間の防災対策費は平均16,356円で前年から6千円超アップするものの、十分な対策には約5万円不足している。ライフライン停止時における在宅避難の対策は、約6割が講じている（6～13ページ）

最も備えが必要だと思う災害の1位は、10年連続で「地震」（72.4%）となった。防災対策未実施者は3割超（33.4%）で前年（32.5%）からほぼ変わらなかったが、年間の防災対策費（平均）は6,064円増加し、16,356円になった。しかし、十分な対策をとるための費用には48,967円不足している。

ライフライン停止時における在宅避難の対策は「講じている」が6割超（63.1%）で「講じていない」（36.9%）を上回り、前年（43.4%）から19.7pt上昇した。

○災害時、避難指示発令時でも“避難しない”は約5割。避難することによる身体的・精神的負担を懸念（14～16ページ）

災害発生の危険度と、取るべき行動を5段階で示した「警戒レベル」をもとに避難を行うタイミングを聞いたところ、「警戒レベル4 避難指示（全員退避）」発令段階でも“避難しない”は約5割（45.8%）に及んだ。避難しない理由の1位は「自宅に留まる方が身体的・精神的負担が小さい」（39.1%）だった。

【 調査概要 】

1. 調査期間 : 2025年1月22日～1月24日
2. 調査方法 : インターネット応募による選択方式および自由記入方式
3. 調査対象 : 1,000人(全国の男女各500人)

調査対象者の内訳(人)

	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	全体
北海道地方	27	19	9	8	15	12	2	46
東北地方	32	40	17	15	11	16	13	72
関東地方	218	199	86	74	83	77	97	417
中部地方	74	74	25	29	29	29	36	148
近畿地方	92	96	39	41	36	38	34	188
中国・四国地方	29	37	16	19	11	14	6	66
九州地方	28	35	8	14	15	14	12	63
合計	500	500	200	200	200	200	200	1,000

- 北海道地方 : 北海道
 東北地方 : 青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県
 関東地方 : 茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県
 中部地方 : 新潟県・富山県・石川県・福井県・山梨県・長野県・岐阜県・静岡県・愛知県
 近畿地方 : 三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県
 中国・四国地方 : 鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県
 九州地方 : 福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県

【 目次 】

1. 2024年の災害による防災意識の変化	3
2. 被災・避難の経験	4
3. 将来、自身が被災する可能性について	5
4. 最も備えが必要だと思う災害	6
5. 家庭の防災対策	
a. 家庭の防災対策の評価	7
b. 防災対策費の理想と現実	8
c. 実施している家庭の防災対策	9～10
d. 今後、実施しなくてはいけないと思う防災対策	11
e. 防災対策未実施の理由	12
f. ライフライン停止時における在宅避難の対策	13
6. 避難準備・避難行動	
a. 避難準備・避難を行うタイミング	14
b. 避難しない理由	15
c. 避難する場所・分散避難を選択しない理由	16

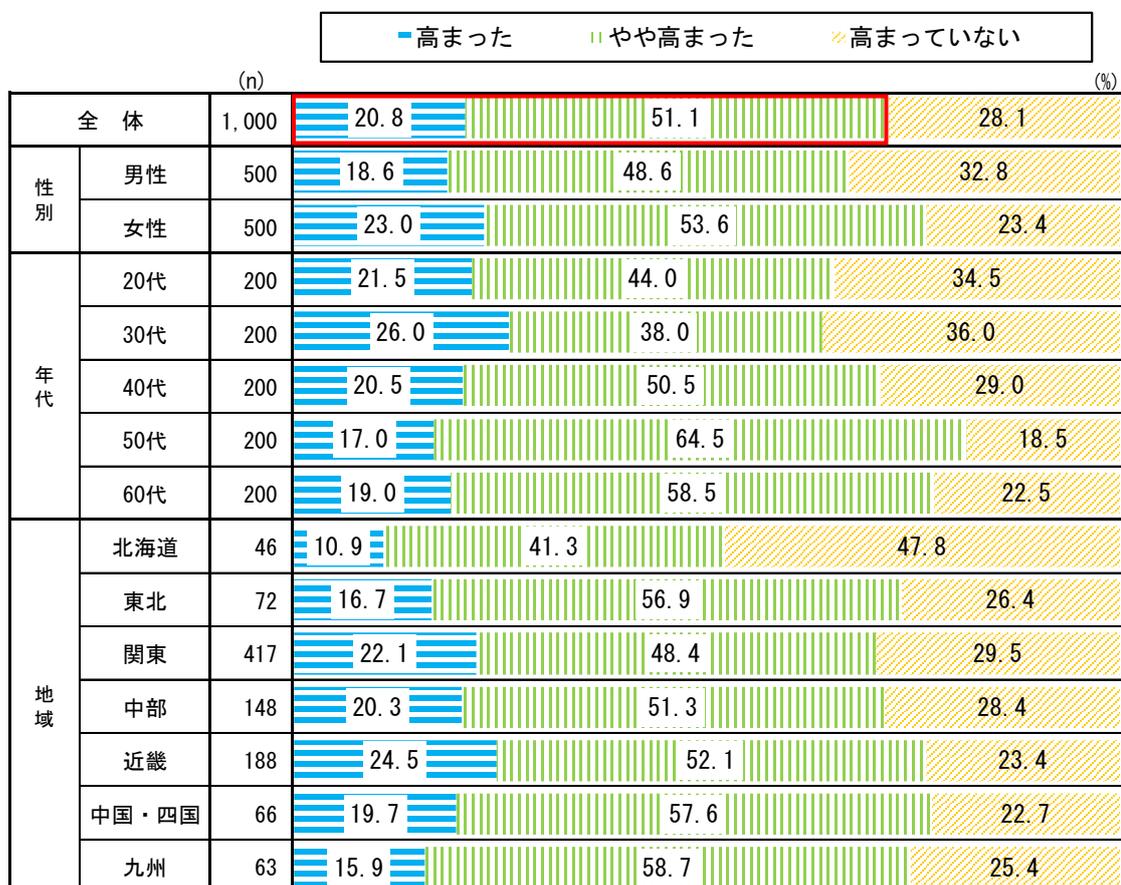
【 調査結果 】

1. 2024年の災害による防災意識の変化

2024年に起きた災害により、防災への意識・関心が“高まった”（「高まった」「やや高まった」）は71.9%でした。“高まった”のうち、52.4%が自身の防災対策の行動（備蓄やハザードマップ・避難場所の確認など）に「結びついている」と回答しています。

2024年は、元日に能登半島地震が、4月には豊後水道でも地震が発生し、8月の日向灘地震では初の「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表されました。必然的に巨大地震に関する情報が増加し、防災意識の向上につながったと考えられます。

◆2024年に起きた数々の災害により、防災への意識・関心は高まりましたか。



◆防災意識の高まりが、自身の防災対策の行動（備蓄やハザードマップ・避難場所の確認など）に結びついていますか。

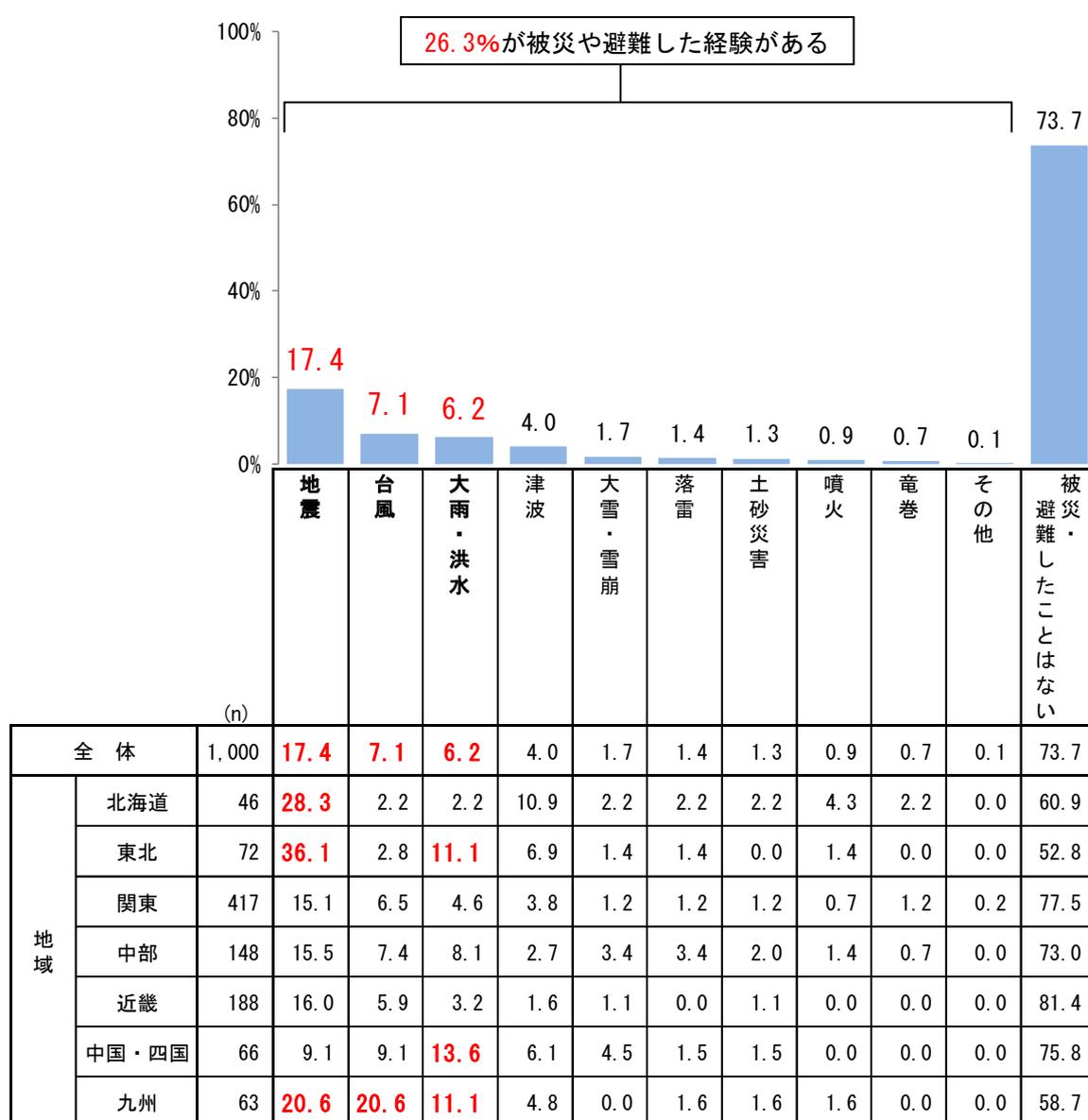
*対象：2024年に起きた数々の災害により、防災への意識・関心が“高まった”（「高まった」「やや高まった」）との回答者（n=719）

自身の防災対策の行動に	%
結びついている	52.4
結びついていない	47.6

2. 被災・避難の経験

過去に被災・避難した経験がある人は 26.3%で、災害の種類は多いものから「地震」(17.4%)、「台風」(7.1%)、「大雨・洪水」(6.2%)でした。地域別で見ると、「地震」は東北(36.1%)、北海道(28.3%)、九州(20.6%)が、「台風」は九州(20.6%)が、「大雨・洪水」は中国・四国(13.6%)、東北(11.1%)、九州(11.1%)が高くなっています。

- ◆あなたはこれまでに、災害で被害を受けたり、自治体等の指示のもと、避難場所等に避難した経験がありますか。経験がある場合は、災害の種類を教えてください。
(複数回答可)

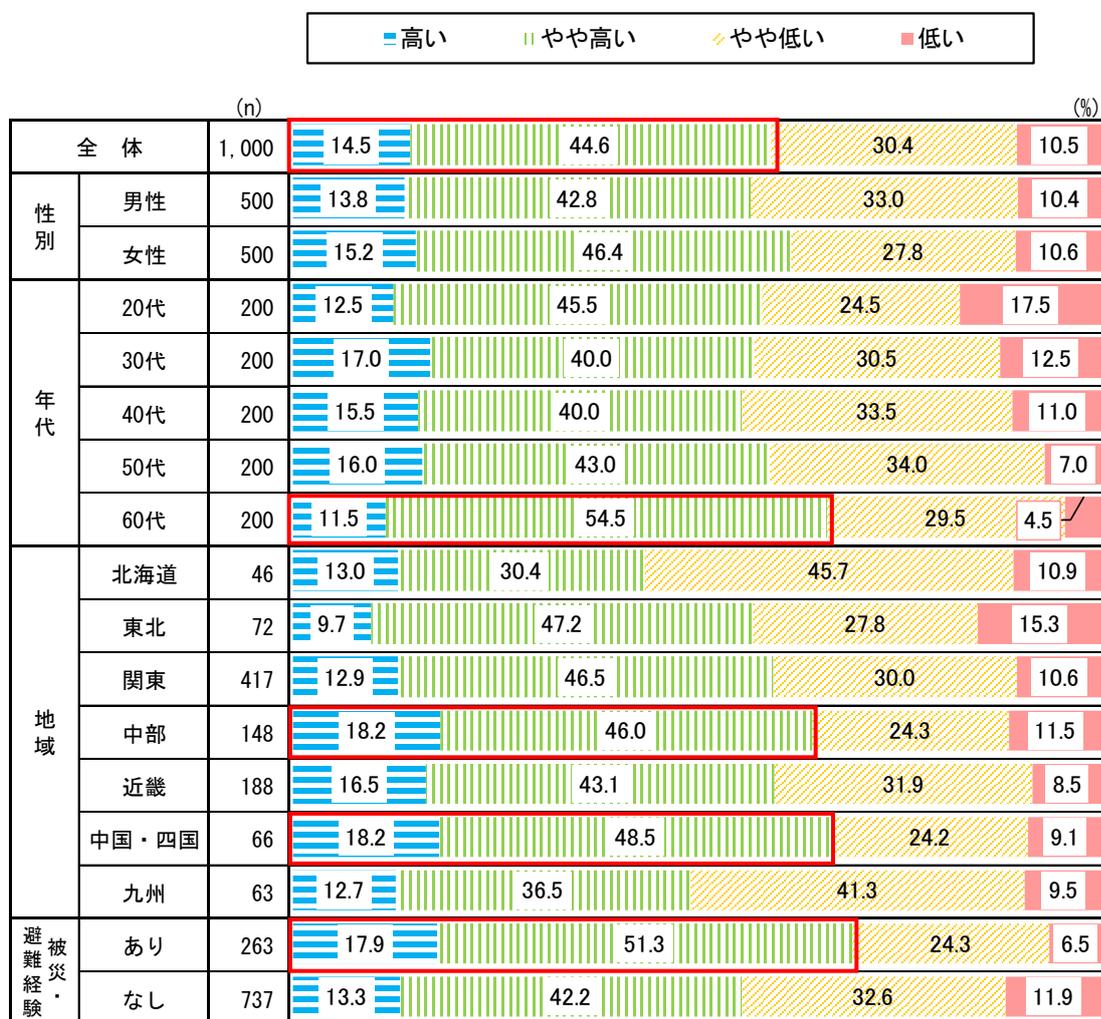


3. 将来、自身が被災する可能性について

将来、大きな災害により自身が被災（物理的・身体的・経済的・心的被害等）すると思うか、その可能性について聞いたところ、約6割（59.1%）が“高い”（「高い」「やや高い」）と回答しました。“高い”は、年代別では60代（66.0%）が最高で、地域別では中国・四国（66.7%）、中部（64.2%）が高くなっています。

また、“高い”を被災・避難経験の有無で比較したところ、「経験あり」（69.2%）が「経験なし」（55.5%）を上回りました。

◆将来、あなたが大きな災害で被災（物理的・身体的・経済的・心的被害等）する可能性について、あなたの考えを教えてください。



4. 最も備えが必要だと思う災害

10年連続で1位になったのは「地震」(72.4%)で、以下は「台風」(8.1%)、「大雨・洪水」(5.8%)が続きました。

全体では前年から大きな変化はありませんが、北海道と東北の2位に「津波」と「噴火」が入りました。本調査実施直前の2025年1月15日、政府の地震調査委員会は、南海トラフだけではなく、北海道や三陸沖にある日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の発生確率を引き上げました。発生時には大津波が想定されているため、「津波」の数値が上がったと考えられます。また、「噴火」についても、それぞれ前年から8pt以上増加していますが、2024年の駒ヶ岳の火山活動活発化や、岩手山の噴火警戒レベルの引き上げが影響しているのかもしれない。

◆あなたにとって最も備えが必要だと思う災害は何ですか。

(数字は%、○内数字は順位)

位	2025 調査	全体	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州
1	地震	72.4	58.7①	62.5①	75.8①	79.1①	79.3①	59.1①	49.2①
2	台風	8.1	2.1	4.2	7.2②	4.1②	10.1②	7.6	27.0②
3	大雨・洪水	5.8	8.7	6.9	4.6③	4.1②	4.2③	15.2②	9.5③
4	津波	4.7	10.9②	11.1②	2.6	3.4	3.2	12.1③	6.3
5	噴火	3.7	10.9②	11.1②	3.4	3.4	1.1	1.5	3.2
6	土砂災害	1.4	0.0	1.4	1.5	1.3	0.5	3.0	3.2
7	落雷	1.2	0.0	0.0	2.6	0.0	0.5	0.0	0.0
	竜巻		4.3	0.0	1.4	2.0	0.0	0.0	1.6
9	その他	0.9	2.2	0.0	0.7	1.3	1.1	1.5	0.0
10	大雪・雪崩	0.6	2.2	2.8	0.2	1.3	0.0	0.0	0.0

【前年調査】

(数字は%、○内数字は順位)

位	2024 調査	全体	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州
1	地震	73.1	69.8①	68.8①	78.8①	72.9①	76.4①	59.7①	50.8①
2	台風	9.0	4.7③	3.9	5.7③	5.0③	11.3②	16.9②	31.7②
3	大雨・洪水	6.2	0.0	6.5③	5.9②	8.6②	3.1③	11.7③	9.5③
4	津波	3.5	4.7③	6.5③	2.7	3.6	3.1③	3.9	4.8
5	噴火	2.4	2.3	2.6	2.0	4.3	2.1	2.6	1.6
6	大雪・雪崩	2.3	14.0②	7.8②	1.0	3.6	0.0	2.6	0.0
7	土砂災害	1.6	0.0	2.6	1.5	0.7	2.1	2.6	1.6
8	その他	0.9	4.7③*	0.0	1.2	0.7	0.5	0.0	0.0
9	落雷	0.7	0.0	0.0	1.2	0.7	0.5	0.0	0.0
10	竜巻	0.3	0.0	1.3	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0

※ 北海道の「その他」:「わからない」「なし」

5. 家庭の防災対策

a. 家庭の防災対策の評価

家庭の防災対策の評価の平均（100点満点）は、前年から微増の41.4点でした。

年代別では10年連続で60代が1位でしたが、前年から5点以上増加したのは2位の20代（8.3点増）と3位の30代（6.5点増）でした。

地域別では、上位から関東、東北、九州、近畿の順となり、いずれも40点を超えています。

被災・避難経験の有無による比較では、「経験あり」（47.3点）が「経験なし」より8.0点高い評価となりました。

◆ご家庭の防災対策に点数をつけるとすれば、100点満点中何点ですか。

【平均：全体・男女別】

（数字は点数、○内数字は順位）

	今回	前年	前々年
全体	41.4	38.1	36.0
男性	42.9	39.7	37.5
女性	39.9	36.4	34.4

【平均：年代別】

位	年代	今回	前年	前々年
1	60代	45.9	47.4①	39.8①
2	20代	42.9	34.6④	33.6④*
3	30代	40.1	33.6⑤	33.6⑤*
4	50代	39.1*	35.2③	37.7②
5	40代	39.1*	39.5②	35.1③

※ 今回 50代 39.13点、40代 39.09点

※ 前々年 20代 33.58点、30代 33.56点

【平均：地域別】

位	地域	今回	前年	前々年
1	関東	44.2	38.1③	37.7④
2	東北	43.1	45.8①	38.9②
3	九州	40.6	32.9⑦	33.6⑤
4	近畿	40.4	37.9④	32.7⑦
5	中部	39.6	36.6⑤	32.9⑥
6	中国・四国	35.1	36.5⑥	38.0③
7	北海道	33.7	39.6②	39.6①

【平均：被災・避難経験別】

被災・避難経験	
あり（n=263）	47.3
なし（n=737）	39.3

b. 防災対策費の理想と現実

家庭の年間の防災対策費は、十分な対策を行う場合に必要な費用（理想）が平均 65,323 円であるのに対し、実際の支出（現実）は平均 16,356 円で、“理想”と“現実”に 48,967 円のギャップが生じました。前年から、“現実”は 6,064 円増加しましたが、“理想”の増加幅（25,661 円）が大きかったため、“理想”と“現実”の差は前年より広がっています。

支出平均の年代別 1 位は 50 代（20,704 円）ですが、前年から顕著に増えたのは 20 代（10,324 円増）でした。20 代は、「家庭の防災対策の評価（前出 5-a）」でも、年代別で前年から最大の増加幅となり、防災対策に積極的になっていることがわかります。

地域別の 1 位は近畿（20,947 円）でした。前年からの増加額も 12,798 円と高く、日向灘地震による「南海トラフ地震臨時情報」発表の影響がうかがえます。

- ◆この一年間で十分な防災対策を行う場合に必要となる費用（理想）と、実際に支出された金額（現実）を教えてください。

（数字は円、○内数字は順位）

【理想と現実の平均：全体】

	今回	前年
実際の支出（現実）	16,356	10,292
必要な費用（理想）	65,323	39,662
差額（現実－理想）	▲48,967	▲29,370

【支出平均：全体・男女別】

	今回	前年	前々年
全体	16,356	10,292	10,583
男性	14,396	11,096	11,898
女性	18,317	9,489	9,267

【支出平均：年代別】

位	年代	今回	前年	前々年
1	50代	20,704	12,118②	9,313④
2	20代	17,748	7,424⑤	9,199⑤
3	30代	16,931	9,727③	12,143①
4	60代	14,556	13,808①	10,455③
5	40代	11,844	8,386④	11,803②

【支出平均：地域別】

位	地域	今回	前年	前々年
1	近畿	20,947	8,149⑤	15,267②
2	中部	20,699	9,474④	5,788⑥
3	東北	18,719	20,655①	10,040③
4	九州	16,311	4,715⑦	9,311⑤
5	関東	14,554	10,384③	9,498④
6	北海道	8,517	7,905⑥	4,515⑦
7	中国・四国	7,866	12,262②	21,317①

【支出平均：被災・避難経験別】

被災・避難経験	支出平均
あり (n=263)	24,595
なし (n=737)	13,417

c. 実施している家庭の防災対策

3位の「特になし」(33.4%)を除く約7割(66.6%)が防災対策に取り組んでいます。「特になし」は前年から微増しましたが、「非常用飲料水の備蓄」、「非常用食品の備蓄」、「非常用持ち出し袋の準備」、「避難場所・経路の確認」はいずれも前年から4pt以上増加しました。

なお、被災・避難経験の有無による比較では、「経験あり」(74.5%)が「経験なし」(63.8%)を上回り、防災対策に積極的に取り組んでいることがわかります。

◆ご家庭で実施している防災対策は何ですか。(複数回答可)

「特になし」(33.4%)を除く66.6%が、防災対策に取り組んでいる

(数字は%、○内数字は順位)

位		今回	前年
1	非常用飲料水の備蓄	41.8	36.2①
2	非常用食品の備蓄	36.1	30.6③
3	特になし	33.4	32.5②
4	非常用持ち出し袋の準備	32.7	28.6④
5	避難場所・経路の確認	24.2	20.1
6	ハザードマップ(被害予測地図)の確認	22.7	20.2
7	寝室に懐中電灯やスリッパ等を用意	21.6	22.7⑤
8	家具などの転倒・落下防止策	21.5	22.5⑥
9	家族間での連絡方法の確認	16.4	14.8
10	ローリングストック	16.3	13.5
11	家屋の耐震化	9.9	13.7
12	自治体や勤務先の防災情報メールに登録(キキクル以外)	7.9	6.6
13	線状降水帯予想を確認できるアプリ等	6.6	4.6
14	防災訓練の実施・参加	6.1	5.6
15	防災冊子の入手・購入	5.8	6.2
16	キキクル(危険度分布)の通知サービスに登録	2.8	2.1
17	その他	0.1	0.2

【防災対策の有無：被災・避難経験別】

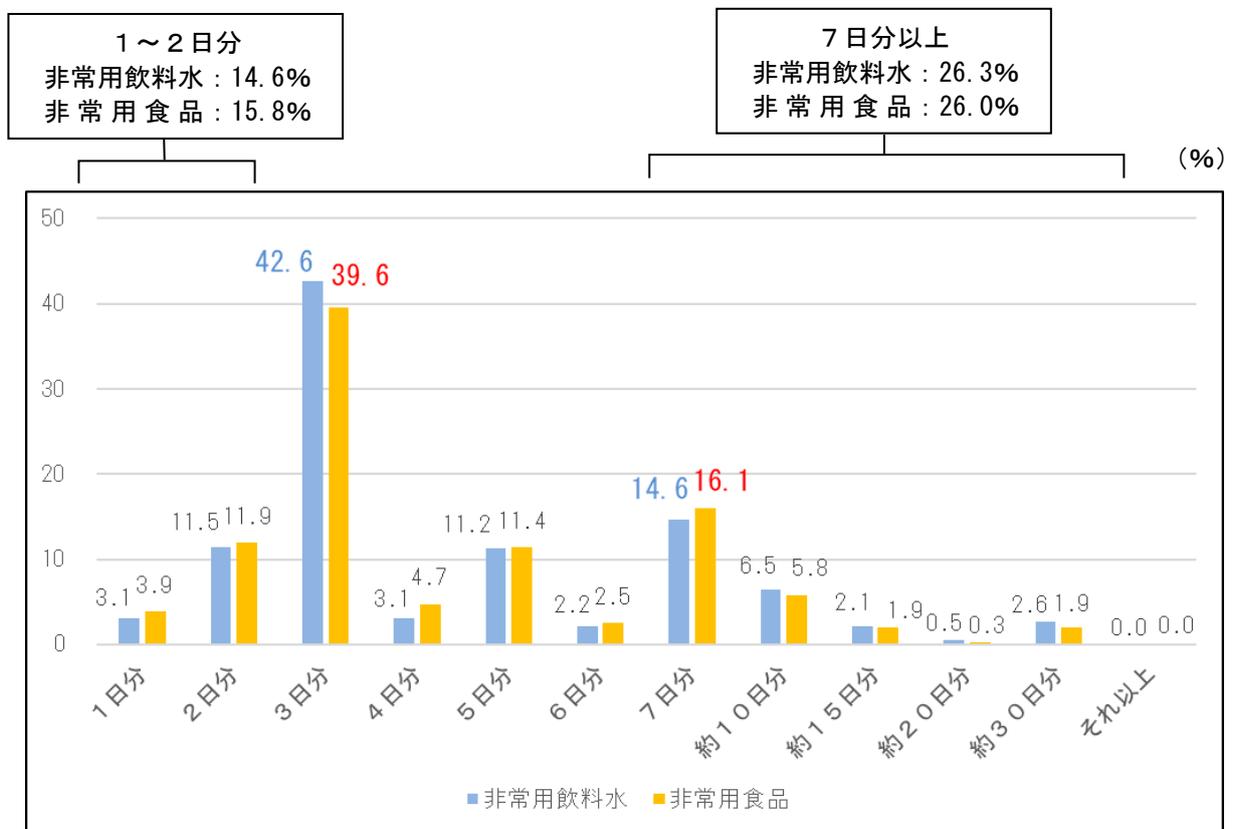
(%)

被災・避難経験	実施している防災対策	
	あり	なし
あり (n=263)	74.5	25.5
なし (n=737)	63.8	36.2

非常用飲料水（対象者：418人）および非常用食品（対象者：361人）の備蓄量は、「3日分」、「7日分」が多いという結果になりました。国や地方公共団体等は“最低3日分、大規模災害に備えてできれば1週間分”を推奨していますが、その基準に満たない「2日分」以下は1割以上（非常用飲料水14.6%、非常用食品15.8%）、「7日分」以上は約3割（非常用飲料水26.3%、非常用食品26.0%）でした。万一のために、防災備蓄は多く備えておきたいものです。

◆ご家庭で、何日分の非常用飲料水および食品を備蓄していますか。

* 対象：実施している家庭の防災対策が「非常用飲料水」(n=418)・
「非常用食品」(n=361)との回答者



d. 今後、実施しなくてはならないと思う防災対策

1位から順に「非常用飲料水の備蓄」(61.3%)、「非常用持ち出し袋の準備」(59.3%)、「非常用食品の備蓄」(58.5%)となりました。

11位の「特になし」は全体では25.3%ですが、防災対策未実施者の33.4%（「実施している家庭の防災対策」(前出5-c)が「特になし」との回答者）とは8.1ptの差が生じ、必要だと思いつつ対応できていないことがわかります。なお、年代別では20代の4割以上(42.5%)が「特になし」と回答しました。

◆今後、あなたのご家庭で実施しなくてはならないと思う防災対策は何ですか。

現在対策済みのもも含めて回答してください。(複数回答可)

(数字は%、○内数字は順位)

位		全体	20代	30代	40代	50代	60代
1	非常用飲料水の備蓄	61.3	42.5②	60.0①	60.0①	65.0①	79.0①
2	非常用持ち出し袋の準備	59.3	44.0①	58.0②	57.0③	62.0②	75.5③
3	非常用食品の備蓄	58.5	39.5④	57.0③	58.0②	62.0②	76.0②
4	家具などの転倒・落下防止策	44.2	32.0⑤	39.0④	44.5④	44.5④	61.0④
5	避難場所・経路の確認	42.0	30.5⑥	38.5⑤	42.5⑤	40.5⑥	58.0⑥
6	寝室に懐中電灯やスリッパ等を用意	39.2	25.5	33.0⑥	36.5⑥	41.0⑤	60.0⑤
7	ハザードマップ(被害予測地図)の確認	36.7	29.5	31.5	36.5⑥	36.0	50.0
8	家族間での連絡方法の確認	34.7	24.5	30.5	35.0	37.0	46.5
9	ローリングストック	28.2	16.5	30.0	30.5	34.0	30.0
10	家屋の耐震化	25.6	17.5	25.0	21.0	24.5	40.0
11	特になし	25.3	42.5②	27.0	26.5	20.5	10.0
12	自治体や勤務先の防災情報メールに登録(キキクル以外)	18.5	13.5	16.5	15.0	17.5	30.0
13	防災訓練の実施・参加	17.5	12.0	18.5	13.5	16.5	27.0
14	線状降水帯予想を確認できるアプリ等	16.1	12.0	16.5	13.5	15.0	23.5
15	防災冊子の入手・購入	14.9	9.5	17.0	14.0	13.5	20.5
16	キキクル(危険度分布)の通知サービスに登録	11.8	10.0	11.5	11.0	11.0	15.5
17	その他	0.4	0.0	0.0	0.0	0.5	1.5

e. 防災対策未実施の理由

防災対策未実施者は全体では 33.4%（「実施している家庭の防災対策」（前出 5-c）が「特になし」との回答者）でしたが、年代別で見ると 20代（48.0%）と 30代・40代（35.5%）が高くなっています。

未実施の理由の 1 位は「特になし」（33.5%）で、関心の低さが見られます。60代は「特になし」（18.4%）は低いものの、約 4 割（39.5%）が「つい先延ばしにしてしまう」と回答しました。

◆防災対策を実施していない理由は何ですか。（複数回答可）

* 対象：実施している家庭の防災対策（前出 5-c）が「特になし」との回答者（334 人）

（数字は%、○内数字は順位）

		全体	20代	30代	40代	50代	60代
n		334	96	71	71	58	38
位	%	33.4	<u>48.0</u>	<u>35.5</u>	<u>35.5</u>	29.0	19.0
1	特になし	33.5	43.8①	39.4①	25.4③	29.3①	<u>18.4</u>
2	何をしたらよいか分からない	30.8	29.2②	33.8②	38.0①	25.9②	23.7②
3	つい先延ばしにしてしまう	25.4	16.7	21.1	33.8②	25.9②	<u>39.5①</u>
4	面倒	18.9	20.8③	16.9	18.3	19.0	18.4
5	お金がかかる	18.3	15.6	23.9③	11.3	22.4	21.1③
6	やっても無駄	7.5	9.4	4.2	4.2	12.1	7.9
7	その他	0.6	1.0	0.0	1.4	0.0	0.0

f. ライフライン停止時における在宅避難の対策

大規模な災害が発生すると、電気・水道・ガス・通信等にも多大な影響が発生します。ライフライン停止時における在宅避難の対策を「講じている」は約6割（63.1%）で、前年（43.4%）から大幅に上昇しました。

なお、「講じている」を、被災・避難経験の有無別に見ると、10pt以上の差をつけて「経験あり」（73.0%）が「経験なし」を上回りました。

「講じている」との回答者に在宅避難可能日数を聞いたところ「3日」が最多（34.1%）で、大規模災害の備えとして望ましい「7日」以上は約2割（21.4%）でした。

◆ライフライン（電気・水道・ガス・通信等）停止時における在宅避難の対策（食事・トイレ・熱源・情報等）は講じていますか。

(%)

	講じている	講じていない
今回	63.1	36.9
前年	43.4	56.6

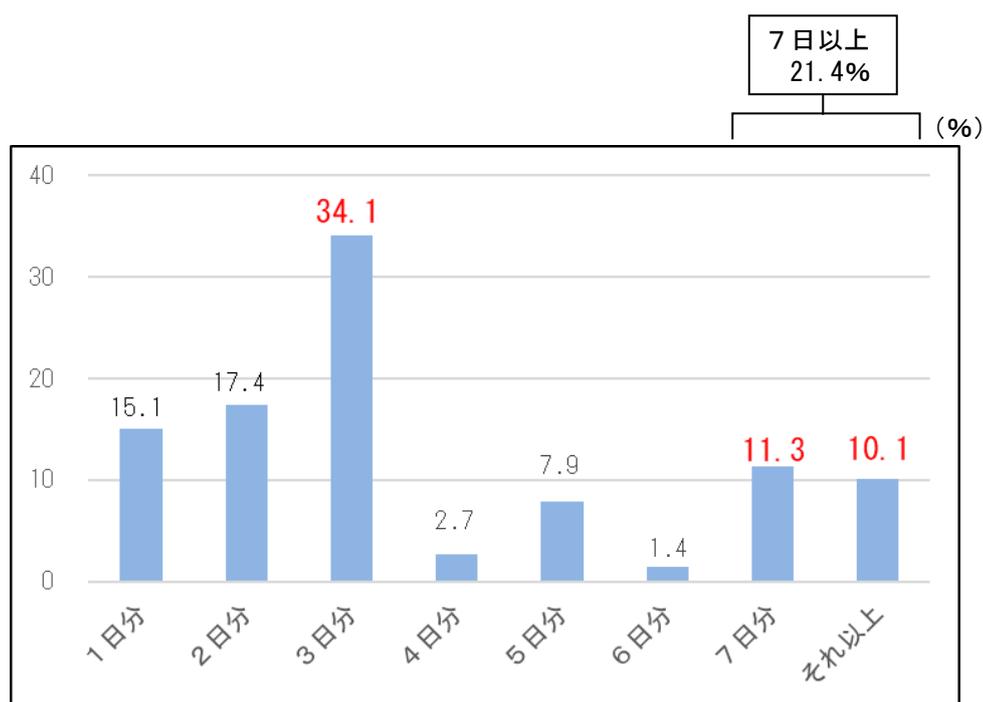
【被災・避難経験別】

(%)

被災・避難経験	講じている	講じていない
あり (n=263)	73.0	27.0
なし (n=737)	59.6	40.4

◆現在の対策で、ライフラインが途絶えた状況下において、何日の在宅避難が可能ですか。

*対象：ライフライン停止時における在宅避難の対策を「講じている」との回答者 (n=631)



6. 避難準備・避難行動

a. 避難準備・避難を行うタイミング

警戒レベルとは、災害発生の危険度と取るべき避難行動を住民が直観的に理解できるよう、5段階のレベルで示された情報です。警戒レベルをもとに、避難および避難準備を行うタイミングを聞いたところ、いずれにおいても“しない”という回答が約3割（“避難準備”30.2%、“避難”30.2%）でした。

また、“避難”については、「警戒レベル4 避難指示（全員退避）」発令段階でも“しない”（「警戒レベル5 緊急安全確保」の段階で避難（15.6%）と「避難しない」（30.2%）の計）が45.8%となりました。

◆災害時、自宅が危険な場所である場合、避難準備・避難を行う警戒レベルを教えてください。

（数字は%、○内数字は順位）

警戒レベル	状況	行動を促す情報	避難準備	避難
警戒レベル1	今後 気象状況悪化のおそれ	早期注意情報 災害の心構えを高める	7.4	4.6
警戒レベル2	気象状況悪化	大雨・洪水・高潮注意報 ハザードマップ等で避難行動を確認	10.3	4.2
警戒レベル3	災害のおそれあり	高齢者等避難 危険な場所から高齢者等退避	28.3	13.5
警戒レベル4	災害のおそれ高い	避難指示 危険な場所から全員退避	16.6	31.9
警戒レベル5	災害発生または切迫	緊急安全確保 命の危険 直ちに安全確保！	7.2	15.6
避難準備または 避難しない	—	—	<u>30.2</u>	<u>30.2</u>

※警戒レベル1～2は気象庁発表、3～5は市町村発令

「警戒レベル4 避難指示（全員退避）」が発令されても“避難しない”が45.8%

b. 避難しない理由

災害時、自宅が危険な場所にあっても「避難しない」との回答者（302人）に理由を聞いたところ、1位が「自宅に留まる方が身体的・精神的負担が小さい」（39.1%）、2位が「自宅に避難させてくれるような、親戚・知人がいない」（35.8%）でした。

なお、避難所の過ごしやすさに関する項目として、1割以上が「プライバシーの保護」（20.2%）、「トイレへの不安（衛生面・使いやすさ）」（15.9%）、「暑さ・寒さ対策に不安を感じる」（12.3%）、「感染症対策に不安を感じる」（11.3%）、「お風呂への不安（衛生面・使いやすさ）」（10.9%）を挙げました。

◆災害時、あなたが避難しない理由を教えてください。（複数回答可）

*対象：避難準備・避難を行うタイミング（前出6-a）で、いかなる警戒レベルにおいても「避難しない」との回答者（n=302）

位	避難しない理由	%
1	自宅に留まる方が身体的・精神的負担が小さい	39.1
2	自宅に避難させてくれるような、親戚・知人がいない	35.8
3	プライバシーの保護	<u>20.2</u>
4	お金がかかる	17.5
5	トイレへの不安（衛生面・使いやすさ）	<u>15.9</u>
6	避難所の暑さ・寒さ対策に不安を感じる	<u>12.3</u>
7	犯罪やトラブルに巻き込まれないか心配	11.6
8	避難所の感染症対策に不安を感じる	<u>11.3</u>
9	お風呂への不安（衛生面・使いやすさ）	<u>10.9</u>
10	必要な支援が受けられるか心配	10.3
11	自宅不在時の盗難等の被害が心配	9.9
12	ペット（犬、猫等）を連れていけない	8.9
13	避難時のホテルや宿泊施設の空き状況が心配	7.9
14	安全に避難できるホテルや宿泊施設を把握していない	7.6

c. 避難する場所・分散避難を選択しない理由

災害時、自宅が危険な場所である場合の避難先は、「市町村指定の避難場所・避難所」が8割超（84.7%）で1位になりました。選択理由の1位は「避難所が最も支援を受けやすい」（45.3%）で、感染症対策などに有効な、分散避難が進まない一因になっているようです。

◆自宅が危険な場所である場合、あなたが避難する場所を教えてください。（複数回答可）

*対象：避難準備・避難を行うタイミング（前出6-a）で、いかなる警戒レベルにおいても「避難しない」以外の回答者（n=698）

位	避難する場所	%
1	市町村指定の避難場所・避難所	84.7
2	車中	16.9
3	ホテル等の宿泊施設	15.8
4	親戚宅	14.8
5	知人宅	6.7
6	その他	1.9

◆「市町村指定の避難場所・避難所」（多くの人が集まるため感染リスクの懸念あり）を選択された理由を教えてください。（複数回答可）

*対象：自宅が危険な場所である場合、避難する場所が「市町村指定の避難場所・避難所」との回答者（n=591）

位	分散避難をしない理由	%
1	避難所が最も支援を受けやすい	45.3
2	ホテルや宿泊施設はお金がかかる	25.2
3	安全に避難できるホテルや宿泊施設を把握していない	23.4
4	取り残されて、必要な支援が受けられないのではないかと心配	21.5
5	避難所の感染症対策が充分	18.1
6	馴染みのない場所に行くのが不安	16.4
7	避難時のホテルや宿泊施設の空き状況が心配	15.1
8	自宅に避難させてくれるような、親戚・知人がいない	13.2
9	ペット（犬、猫等）を連れていけない	9.0
	車（車中避難や移動手段としての）がない	
11	小さい子どもや要介護者（高齢者や障がい者）を連れて避難できない	6.9
12	親戚・知人宅は、感染対策をとりにくい	4.6
13	その他	2.4

以上